

カリブラコア キャンキャン™・シリーズ

学名: *Calibrachoa hybrid*

鉢上げから出荷まで 培地

- 水はけがよく、ピート主体の新しい衛生的な培地を使用。pHは5.4から5.8とする
- 生産期間を通じて培地のpHは5.4から5.8を一貫して維持する。培地は、2週間ごとあるいは目視的にpHの上昇の初期の徴候が見られる場合には、定期的に試験を行う。このような初期の徴候は、鉄欠乏を回避するため、土壌のpHを下げなければならない最も原初的指標である

温度

- 夜間温度: 10から14°C
- 昼間温度: 21から24°C
- 奨励している温度よりも高い条件のもとでは、分枝が不十分であったり、不要な徒長を招いたり、花数の減少などが発生することがある
- 上記で示された夜間温度は、最大量の分枝と最良の草姿を作り出す条件である

光条件

- 光強度は50,000から80,000ルクス(5,000から8,000f.c.)を維持する
- 照度が低いと、株の徒長や開花に悪影響を及ぼすことがある
- 春から夏にかけての長日条件が、開花において最良の条件である。概ね、春の中盤から終盤にかけて開花が始まり、5月下旬から9月にかけて最盛期を迎える。生産期間は、短日条件下では長くなるであろう。秋生産に関しては、短日条件に入って、有意に影響が出る前に花芽の分化がはじまる作型を実行するのであれば可能である
- 短日条件に最速で開花させるには、夜温を15から16°Cで維持し、12ないし13時間以上の人為的な日長条件を補光で補う。手段として、暗期中断を用いることも可能である

水やり

- 株はボトリティスにかかりやすいので、高湿度の条件や葉が湿りがちにならぬよう注意する
- カリブラコアは、水やりで過湿な状態が続くと、根の病気にかかりやすい。次の水やりまでの間は、培地を多少ドライな状態におく。ただし株を枯らせないように注意する
- 常に植物に水平方向の通気がなされるように管理を行う

肥料

- カリブラコアは、肥料を多く必要とする植物である
- 汎用タイプの肥料を225から300ppm(N)の濃度でコンスタントに与え、必要に応じて鉄を追加的に供与する

- 微量(少量)要素を網羅する、補完的な肥料分の供与が付加的に必要である
- 高溶解塩による問題が発生した場合は、水やりの3回に1度の頻度で、水で培地を洗い流す

培地のpH管理

- 株のpHが上昇していないか、その徴候(若葉の葉脈における黄化など)について、早くから定期的な監視を行なう。実際に黙認が可能な徴候が現れても正しく判断することは難しいため、通常の土壌pH試験による、数値の変動が実際に確認することが最適な方法である
- 定期的な酸性肥料分の供与、あるいはキレート鉄(NaFeEDTA)のかん注によって、適当なpHレベルが維持されるであろう
- pHを降下させる効果的な方法としては、硫化鉄をかん注などがある。硫化鉄を用いた時は、葉や花に硫化鉄溶液の残留があると一種の葉害の発生する可能性があるため、使用後は葉を早急に洗い流す

ピンチ

- 移植後1週ないし2週の段階で、地際分枝を生育を促すため、軽く刈り込むようにピンチをかける。ピンチによって、株が育つにつれて良好な草姿が期待できるであろう。ただし開花が2,3週遅れる可能性がある
- 試験としては、ストレスフリーの健康な苗において、フローラルを250から500ppmの濃度で1から3回散布することで、分枝力が向上することが確認されている。ただしこの処理では、用いられる濃度にもよるが、開花が7,8週遅れるであろう。その代わり、良質な分枝、濃く強健的な葉色、そしてつまった節間などが期待できる

生長の制御

- 生長を制御するために、十分な光条件と低温管理を利用する
- キャンキャン・シリーズは、生産においてDIFにとってもよく反応する

- 必要であれば、移植後2週経過してからBナインを1,500から3,000ppmの濃度で1回ないし数回散布する。カリブラコアの生長は、Aレスト20から50ppmを1,2回散布、あるいはボンザイ3から8ppmのかん注、によっても制御の効果がある。スマジックでは、20から30ppmを1,2回散布することで生長を効果的に制御する
- 株の生長の勢いが多少早いような時は、ボンザイを1から8ppmかん注を施す。株は生長を減速し、つまった性質が維持されそして通常の開花へと発展する
- 矮化剤を生産期間の遅い段階で使用すると、開花が1,2週遅れる可能性がある。花芽が確認された後は矮化剤の使用は避けるべきである

- 上記の矮化剤の使用に関する記載および情報は、あくまでもガイドラインであり、利用者は必ず使用方法を十分かつ正しく読み、使用者の自らの責任のもとで環境や条件を見ながら試行するべきである

予想される病気や虫害等

虫害: アブラムシ、スリップス、ホワイトフライ、ハモグリ、ファンガスナッツなど

病気: ボトリティス、リゾクトニア、ピシウム、チェラビオプシス、他にも疫病菌などによる感染症

カリブラコアの生産は、クリーンストックによる苗からしっかり養生させることからすべてが始まります。したがって、ウィルスなどに感染しやすいので取り扱いには注意が必要です。キャンキャン・シリーズの苗はすべて、ボール・サーティフィケート・プランツ・プログラム **Ball Certified Plants® program** のもと、その栽培方法とウィルス管理によるストックの母株を由来としています。生産に際しては、常に清潔で衛生的なトレイやポットを用い、また移植する先についても広範囲の予防薬剤を用いましょう。

障害等	原因として考えられるもの
株の衰えや衰弱	長期間にわたる培地の過湿(フィットラ、リゾクトニア、チェラビオプシスなどの関与)
開花の遅れ	日長条件による問題(日長時間が短すぎる) 遅い段階で矮化剤を投与したことによる開花遅延
過度の栄養生長	培地(土)中のアンモニア態の濃度が高い 弱い日照条件下で過度な施肥 弱い日照条件下で過湿(多かん水、培地の過湿等) リン酸を過度に投与
弱い分枝力	肥料不足(とくに窒素欠乏) ピンチの遅れ、あるいはピンチをしていない
株の徒長	日照不足
クロロシス	鉄欠乏、あるいは高 pH 窒素欠乏 培地中の塩類濃度の高レベル化

カリブラコア キャンキャン・シリーズの平均的な生産期間と定植本数

	10cm ポット 1 本植え	15cm ポット 1 から 3 本植え	25 から 30cm ポット 4 から 5 本植え
鉢上げ～出荷	6-9 週	7-11 週	8-12 週

*PP: Plants per pot or basket

栽培資料ご利用にあたっての注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう